

以下の時刻は プログラム編成により 変化します、HP掲載 最終プログラムにて ご確認下さい。

【大会長講演1】 8/20(土) 午後4時頃から約1時間の講演

ホリスティック医学

帯津 良一 医師・医学博士



国際生命情報科学会 (ISLIS)主催 第54回生命情報科学シンポジウム 大会長,
ISLIS 特別評議員, 日本ホリスティック医学協会 名誉会長,
帯津三敬病院 名誉院長

要旨: がん治療の現場に身を置いて61年目に入った。外科医として20年、中西医結合によるがん治療を旗印にした病院を開いて41年。ホリスティック医学を追い求めて36年目ということになる。がんという病気がからだだけの病ではなく、こころにもいのちにも深くかかわった病である以上、ホリスティック医学が理想の医学であるのは当然であるが、この三つの大きな流れにはそれなりの必然性がある。まずは手術に明け暮れることによって、からだの中の空間と親しむことができた。次に中医学を取り入れることによって、いのちに焦点をあてることができた。これらの積み重ねの上に辿り着いたホリスティック医学である。理想のホリスティック医学を求めて歩を進めていく所存である。

キーワード: ホリスティック医学, 中西医結合, がん, からだ, こころ, いのち, 体内の空間, ISLIS

【大会長講演2.】 8/21(日) 午前9時頃から約1時間の講演

場を制するは戦略なり

要旨: ホリスティック医学の方法論を追い求めて来たが、いまだに手にしてはいない。そこで④からだに働きかける治しの方法。⑤各種心理療法の助けを借りて患者さんと治療者が心をつなげる⑥いのちに働きかける癒しの方法のそれぞれから戦術を選び出し、個性的な戦略に組み立てたものを用いているのが現状である。治しの方法としては西洋医学。心をつなげるためには相手の生きるかなしみを敬い合うこと。癒しの方法としては各種代替療法つまり漢方薬、鍼灸、気功、ホメオパシー、サプリメント、丸山ワクチンなど。さらにはこれに患者さん自身がおこなう養生法つまり食養生、心のときめき、気功などを用いている。

キーワード: ホリスティック医学, 西洋医学, 心理療法, 代替療法, 養生, 心のときめき, 食養生, 気功, ISLIS

【大会長講演3】 8/21(日) 午後2時頃から約1時間の講演

大ホリスティック医学

要旨: 2015年に18年間務めた日本ホリスティック医学協会会長を辞任したのを機にそれまでの自分の生き方が小ホリスティックであったのを反省し、大ホリスティックを目指すことにした。大ホリスティックとは次の三つの観点から成る。①自然界は小は素粒子から大は虚空に至るまで場の階層から成り、上の階層は下の階層を超えて含むという原理が働いている。だから人間まるごととは人間の階層だけではなく素粒子から虚空まですべての階層を含むことになる。②医学の歴史を観るに個物を対象とする西洋医学から場を対象にする霊性の医学への流れは歴然としている。目指すは霊性の医学である。③この世だけ観ていても生命の本質は理解できない。あの世も含めての生命である。そのためには死を生命の終りとしてとらえるのではなく生命のプロセスの一つと考えて、生と死の統合をはかることである。

キーワード: 大ホリスティック医学, 場の階層, 個物から場へ, 生と死の統合, 虚空, 霊性の医学, ISLIS

理事長講演

ホリスティック医学と潜在能力科学研究の拠点に 世界一の「潜在能力科学研究所」と 「いやしのビル」の実現を目指して

(A Base for **Holistic M**edicine and **Human Potential Science**
Aiming at the Large-Scale “**Human Potential Science Institute**”
and “**Healing Hall**”)

山本 幹男 博士(医学), 博士(工学)
(Mikio YAMAMOTO, Ph.D., Ph.D.)



国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事長・編集委員長, 国際総合研究機構 (IRI) 理事長,
「潜在能力科学研究所」 創立責任者, 「いやしのビル」 企画委員長

要旨: 「ホリスティック医学と不思議の科学」を主テーマとして, 2022年8月20・21日(土日)に第54回生命情報科学シンポジウムを国際総合研究機構(IRI, アイリ, 愛理)と共催で国際生命情報科学会(ISLIS, イスリス)が主催する。この大会長を日本のホリスティック医学の第一人者 帯津良一 ISLIS特別評議員・日本ホリスティック医学協会名誉会長・帯津三敬病院名誉院長にお願いした。大会長講演として、ホリスティック医学に関するこの2日間に3回の講演もお願いした。多くの方の発表や参加を望む。ISLISは、その兄弟組織でこの分野の幾多の研究成果を挙げてきたIRIと共に、IRI-「潜在能力科学研究所」を創設し「いやしのビル」を建設し、ホリスティック医学を含むこの分野の世界一の拠点に育てたい。企画、構想、連携、研究者や多方面の人材の推薦等で皆様のご協力を得たい。このために現本部にスペースを既に借増し、IRIスタッフの増員公募も進め、現在までに40名ほどの参加で数回の人財募集説明も実施し、優秀な人材を既に10名ほど増員した。ISLISの設立趣意は、物質中心の科学技術から、こころや精神を含んだ21世紀の科学技術へのパラダイム・シフト(枠組革新)を通じ、真理の追究と共に、人間の「潜在能力」の開花により、健康、福祉、教育と社会および個人の幸福や心の豊かさを大きく増進させ、自然と調和した平和な世界創りに寄与する事である。ISLISは1995年の創立来27年間、現在の科学知識の延長で説明が出来そうも無い不思議なこころや精神を含んだスピリチュアル・ヒーリング、気功、潜在能力、超心理現象などの存在の科学的実証とその原理の解明を追求して来た。この間に生命情報科学シンポジウムを、海外での開催や14回の合宿形式を含め54回主催し、英文と和訳付の国際学会誌 *Journal of International Society of Life Information Science* (J.Intl.Soc.Life Info.Sci. or *Journal of ISLIS*)を年2号刊行し、総計7,000頁以上の学術論文と発表を掲載し続けてきた。この間に、不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた。しかし、その原理の解明は世界的にもほとんど進んでいない。本学会は現在、世界の11カ所に情報センターを、15カ国以上に約170人の会員を、擁している。

キーワード: ホリスティック医学, 帯津良一, 国際生命情報科学会, ISLIS, イスリス, 生命情報科学, 潜在能力科学, 国際総合研究機構, IRI, アイリ, 愛理, 科学, 精神, 脳, 心身, 代替医療, CAM, 統合医療, IM, 予防医学, 未病, 精神神経免疫, スピリチュアル, ヒーリング, 気功, ヨーガ, 瞑想, 潜在能力, 催眠, 心, 不思議, 世界像, 世界観, 超常現象, 超能力, 超心理, 幸福

講演

ダブルブラインド・スタディで検証されたアーユルヴェーダの波動医学製剤の有効性

上馬場 和夫

NPO法人日本アーユルヴェーダ協会 理事長 (日本、東京)

目的: 波動医学や情報医学的作用について検証をすることが困難だとされてきた。しかし、ホメオパシー製剤に関しては、西洋医学のゴールドスタンダードであるダブルブラインド試験がなされ実証されてきた。我々は、内服も外用もしないで、皮膚に近づけるだけで効果を発揮することが推定されるアーユルヴェーダのヒマラヤ岩塩を練り込んだシリコンゴム製品に関して、ブレスレット型とプレート型製品に関するダブルブラインド試験を行った。

方法&結果: 老人ホーム入居者 24 名や健常成人男女 20 名に口頭での同意を取得した後、アクティブとプラセボ製品着用群に無作為に割り振り、ダブルブラインド試験を 3 種類行った。3 つの試験全てでアクティブ製品が、転倒しにくくなり、歩行時の平衡機能年齢が若くなり、神経筋のエントロピーが低下する結果などが得られた。

結論: アーユルヴェーダ製剤の波動医学的作用について西洋医学的な実証が得られた。

キーワード: アーユルヴェーダ、波動医学的製剤、ダブルブラインド・スタディ

連絡先: 上馬場 和夫 NPO 法人 日本アーユルヴェーダ協会 〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-7-7

講演

ピラミッドパワーの科学的研究 (2007 年 10 月~2022 年 8 月) (Scientific Research on Pyramid Power: Studies from October 2007 to August 2022)

高木 治¹、坂本 政道²、河野 貴美子¹、山本 幹男¹

¹ 国際総合研究機構(IRI) (日本、千葉)

² (株)アクアヴィジョン・アカデミー (日本、千葉)

要旨: 我々は 2007 年 10 月以来、ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー (ピラミッドパワー) に関して、被験者が入って瞑想することが可能なピラミッド模型を作製し、厳密に科学的な実験・分析を続けている。またピラミッドパワーを検出するバイオセンサ (食用キュウリ切片) の特性に関する研究も平行しておこなっている。そしてこれまでの研究成果として、12 編の原著論文、3 編の総合報告、書籍中の 1 編を報告した。本講演では、ピラミッド型構造物自体の潜在力 (被験者を用いない場合) を検証する実験によって得られた (研究成果(7) - (12))、PS の潜在力による、バイオセンサに対するピラミッド効果について発表する。今後これらの成果が広く認められ、科学における新たな研究分野となり、幅広い応用の可能性が期待される。なお、研究成果の詳細は、国際総合研究機構 (IRI) の HP に掲載していますので、ご覧ください。 <http://www.a-iri.org/iri-jp/> **研究成果 (原著論文掲載順)**

- (1) 2013 年 4 月: PS 内で瞑想した被験者による、バイオセンサへの非接触効果 (ピラミッド効果) を発見した。
- (2) 2015 年 5 月: PS 内で瞑想した被験者による、遅延をともなったピラミッド効果を発見した。
- (3) 2016 年 6 月: ピラミッド効果を検出するための一つの条件を特定した。
- (4) 2018 年 3 月: バイオセンサから放出されるガス濃度の周期的 (日内変動) な変化を発見した。
- (5) 2018 年 4 月: キュウリの切断面の方向が成長軸に対して同方向か逆方向かの違いによって、バイオセンサから放出されるガス濃度が異なることを発見した。
- (6) 2019 年 3 月: 6 km 以上離れた被験者の無意識の影響と考えられるピラミッド効果を発見した。
- (7) 2019 年 8 月: 被験者の影響を除外した実験で、PS の潜在力によるピラミッド効果を発見した。
- (8) 2020 年 5 月: PS の潜在力によって、PS 頂点に置いたバイオセンサに対する影響が、下段と上段で異なることを発見した。
- (9) 2020 年 12 月: PS の潜在力が 2 種類あることを発見した (季節変動するピラミッド効果と季節変動しないピラミッド効果)。
- (10) 2021 年 7 月: PS の潜在力による、バイオセンサ間のエンタングルメント (絡み合い) を発見した。
- (11) 2021 年 12 月: バイオセンサ間のエンタングルメントによって、ガス濃度の日内変動の周期性が変化することを発見した。
- (12) 2022 年 6 月: バイオセンサ間のエンタングルメントを「バイオ-エンタングルメント」と命名した。サイ指数 Ψ を、潜在

力によるピラミッド効果 Ψ' と、バイオ-エンタングルメントによるピラミッド効果 Ψ'' に分離した。PS 頂点で下段より上段のバイオセンサに対するピラミッド効果の値が大きくなる要因（季節変化しないピラミッド効果の要因）は主に PS の潜在力による効果 Ψ' にあり、季節変化するピラミッド効果の要因は主にバイオ-エンタングルメントによる効果 Ψ'' にあることを発見した。

キーワード:ピラミッド,潜在力,瞑想,無意識,遅延効果,エンタングルメント,バイオセンサ,キュウリ,ガス,サイ指数

代表著者連絡先: 〒263-0051 千葉県稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4FA

電話 043-255-5482

電子メール: takagi@a-iri.org

研究発表

ピラミッド型構造物の潜在力によるピラミッド効果と バイオ-エンタングルメントによるピラミッド効果

(Pyramid effect by potential power of pyramidal structure and pyramid effect by Bio-Entanglement)

高木 治¹, 坂本 政道², 河野 貴美子¹, 山本 幹男¹

¹ 国際総合研究機構(IRI) (日本, 千葉)

² (株)アクアヴィジョン・アカデミー (日本, 千葉)

要旨: 我々は 2007 年 10 月以来、ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なる「パワー」を実証するため、バイオセンサ(キュウリ切片)を使用し、厳密に科学的な実験を続けている。これまでの我々の研究成果から、PS によるピラミッド効果は次の 2 つに分類することができた。それは、(i) PS 自体の潜在力がバイオセンサに影響を与えるピラミッド効果。(ii) PS 内部に被験者が入って瞑想をした場合、PS が被験者の未知エネルギーを変換してバイオセンサに影響を与えるピラミッド効果。の 2 種類のピラミッド効果である。(i) に関して、これまでに次の 4 つの結果を得た。1) PS の潜在力によって、PS 頂点に置いたバイオセンサに影響を与えるピラミッド効果の存在を明らかにした(春分と秋分で 1 年を 2 つの期間に分けた時、各期間のピラミッド効果を比較した結果、有意差を得た。 $p=6.0 \times 10^{-3}$, Welch's t-test, two-tails, これ以降の p 値も同様)。2) PS の潜在力によって、PS 頂点に 2 段に重ねて置いたバイオセンサに影響を与えるピラミッド効果が、下段と上段で異なることを明らかにした(ピラミッド効果の大きさを示すサイ指数が、下段のバイオセンサに対するサイ指数は -3.01 でマイナスの値、上段に対するサイ指数は 5.52 でプラスの値となり、下段と上段のピラミッド効果の間で有意差を得た。 $p=4.0 \times 10^{-7}$)。3) PS の潜在力に、季節変化するものと、季節変化しないものがあることを明らかにした。4) PS の潜在力によって、バイオセンサ間のエンタングルメント(バイオ-エンタングルメント)と考えられる現象を明らかにした。本発表では、ピラミッド効果の大きさの指標であるサイ指数 Ψ の定義式が、PS の潜在力によるピラミッド効果 Ψ' とバイオ-エンタングルメントによるピラミッド効果 Ψ'' の両方を含んでいることを示し、バイオセンサに対する Ψ' と Ψ'' の影響を別々に解析することを試みた。それにより、上記の 2)の結果、つまり PS 頂点に 2 段に重ねて置いたバイオセンサに対して、下段より上段のバイオセンサに対するサイ指数 Ψ の値が常に大きくなる要因は主に PS の潜在力によるピラミッド効果 Ψ' によること、また上記 3)の結果、つまりサイ指数 Ψ が季節変化をする要因は主にバイオ-エンタングルメントによるピラミッド効果 Ψ'' によることを報告する。また、 Ψ' や Ψ'' の結果を定性的に説明し得る一つのモデルを提案する。ピラミッドパワーに関する研究は、未だアカデミズムの世界では異端と見做されることが多い中、我々の実験結果は、この分野において世界初の研究成果である。今後この成果が一般に広く認められ、科学における新たな研究分野となり、幅広い応用の可能性が期待される。

キーワード:ピラミッド、潜在力、日内変動、周期性、エンタングルメント、バイオセンサ、キュウリ、ガス、サイ指数

代表著者連絡先: 〒263-0051 千葉県稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4FA

電話 043-255-5482

電子メール: takagi@a-iri.org

参考文献: Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2022) Potential Power of the Pyramidal Structure VI: Pyramid Effects due to Potential Power and Pyramid Effects due to Bio-Entanglement. Natural Science, 14, 251-263. <https://doi.org/10.4236/ns.2022.146025>

ミニ・シンポジウム

「量子力学から見た生命」

川嶋 朗

神奈川歯科大学 大学院 統合医療学講座 (日本、東京)

要旨：多くの生物学者が認めている生物の定義とは、以下の3つの条件を満たすものである。

1. 外界と膜で仕切られている。 2. 代謝（物質やエネルギーの流れ）を行う。 3. 自分の複製を作る。

分子生物学の登場で生氣論を否定する風潮が広がった感がある。しかし、4つの塩基を持つ核酸を機械的に組み立てても生物は合成できない。また生物も未生物も同じ元素でできているのにそれを機械的に組み立てても生物は合成できない。生物は生命を持つものとするとは生命の本質の議論はまだまだ未解決と言える。生氣論と機械論は相いれないものであるが、意識のように、ニュートンの物理学やアインシュタインの相対性理論では説明できないものが存在するものも否定はできない。その謎を解く鍵が量子物理学である。本ミニ・シンポジウムでは生命を量子物理学からどう見るかを3名の論客に語っていただき議論をする。

連絡先：川嶋 朗 神奈川歯科大学大学院統合医療学講座 〒108-0074 東京都港区高輪 2-16-5 東武高輪第二ビル 5階

TEL：03-6456-3102 E-MAIL：kawashima@togoiryo-kdu.jp

ホリスティック医学と量子力学

降矢 英成

赤坂溜池クリニック (日本、東京)

NPO 法人 日本ホリスティック医学協会 (日本、東京)

要旨：ホリスティック医学は訳すると、全体（論）的医学となるが、実際的には「ボディ（身体）—マインド（心）—スピリット（魂、靈性）」の視点からの医学・医療ということになる。そのような広い視点に立つと、いわゆる通常の科学や医学の範疇ではとらえきれない事象も含めることになるため、量子力学に基づく量子医学、さらには、気やスピリットに至っては量子力学を超える視点の無分別智医療も必要になってくる。当日は、その辺りについてできる範囲で提示する予定である。

キーワード：ホリスティック医学、ボディ（身体）—マインド（心）—スピリット（魂、靈性）、量子医学、無分別智医療

連絡先：降矢英成 赤坂溜池クリニック 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-5-15-5F 電子メール：akatame5@kt.rim.or.jp

アーユルヴェーダの世界観2 ～量子・実在・生命～

青山 圭秀

株式会社アートオブサイエンス (日本、東京)

要旨:「現象の背後に実在があるとすれば、それは不可分の一体である」20世紀物質科学の金字塔ともいえるベルの定理を通常言語で表現するとこのようになるが、この言明は、太古の昔より聖者や聖典が語ってきた不二一元論、すなわち、「世界は(または生命は)一つの全体である」を必然的に思い起こさせる。その一方では、「世界が不可分の一体であるはずはない。したがって、現象の背後に実在はない」とするいわゆる正統量子論的な立場もあるだろうが、これもまた、「すべてはマヤー(幻)」とした聖者らの言明を想起させる。科学者らが探求してやまない物質世界の究極は、果たして、聖者らが意識の深いレベルで認知した実在と同じものに収束するのか、しないのか。これからの一世紀、または千年紀をかけて、われわれが探求すべき大きなテーマではないかと演者は考える。

キーワード: 量子力学、サーンキヤ哲学、実在、生命、意識

連絡先: 青山 圭秀 株式会社アートオブサイエンス (Art of Science, Inc.)

〒152-0032 東京都目黒区平町 2-23-20 ベルメゾン 201 電子メール: maria@art-sci.jp

量子生物学: 量子効果を利用した渡り鳥の磁気センサー

根本 泰行

生命システム研究所 (日本、東京)

合同会社オフィス・マサル・エモト、株式会社IHM (日本、東京)

要旨: 渡り鳥が地磁気を感知することによって渡りの方角を決定していることは、生物学的な実験によって証明されている。その分子的な仕組みについては未知であったが、最近になって、網膜に含まれるタンパク質「クリプトクロム」の中で2つの量子的な重ね合わせ状態が生成しており、この重ね合わせ状態が微弱な磁気に対して感受性を持つことが分かってきた。すなわち古典的な物理学では説明できない量子的な効果を、生物が積極的に活用していることが示唆されてきている。

キーワード: 量子物理学、量子生物学、重ね合わせ、 渡り、磁気センサー、クリプトクロム

連絡先: 根本 泰行 株式会社アイ・エイチ・エム 合同会社オフィス・マサル・エモト

〒103-0004 東京都中央区東日本橋 2-6-11 NSビル 2F 電話 03-3863-0211、FAX 03-3866-5353 電子メール: ynemoto@life-system-labo.com

研究報告

エネルギーワーカーと精神科医療の協働（第三報）：解離性同一性障害に対する心理療法を促進するエネルギー的な準備について

白川 美也子¹、山本 由紀²

¹ ころとからだ・光の花クリニック(日本、東京)

² ブループリント協会(日本、東京)

要旨：山本はエーテル体を重要視する独自のヒーリング技法を編み出し、精神科医の白川と協働し、200セッション以上を積み重ねてきた。昨年の第一報ではHuman Energy Field (HEF) の各層の亀裂の修復と硬結の解消について、第二報では、婦人保護施設での遠隔ヒーリングについて報告した。今回は解離性同一性障害（以下DID）12名の心理療法を速やかに勧めるために必要であったエネルギー的な方策について報告する。DIDはいわゆる人格状態間の葛藤や恐怖症が、治療操作を困難にする。12例全例において初期の方策は、①可能であればHEFの亀裂を閉じる、②心理治療が可能になる安全な場をエネルギー的に作ることであった。DIDの治療の第一段階は安全の確保であるが（Janet, Herman）、心理療法においてアストラルレベルで行われることと、山本のエネルギー的手法の異なりについても述べたい。

キーワード：エネルギーヒーリング、心理療法、解離性同一性障害

症例報告

エネルギーワーカーと精神科医療の協働（第四報）：解離性同一性障害の事例に対するヒーリングの実際とその効果について

白川 美也子¹、山本 由紀²

¹ ころとからだ・光の花クリニック(日本、東京)

² ブループリント協会(日本、東京)

要旨：DID12例中の一例の回復過程を記述する。ヒーリングでは、初診時に来院した人格状態（ANP：Apparently Normal Part）ではなく、肉体の外にでていた傷ついた人格状態（EP：Emotional Part）を肉体に戻し、かつ肉体の深く眠っていたオリジナルの乳児の人格状態の安全を、肉体外に子宮のようなエネルギー的器を作ることで確保した上で交流できるように整えた。DIDの治療期間は平均6年と言われているが（Putnam, 1997）、2年で終結が可能だった。人格の発達に乳幼児期からの逆境体験が及ぼす影響を、離散型行動状態（Putnam, 1997）構造的解離理論（van der Hart O., Nijenhuis E., Steele K., 2006）を援用して説明し、1回のエネルギーヒーリングの介入が治療過程にもたらした効果を、通常の治療と比較し、エネルギー的に見た人格や意識について論じる。

キーワード：エネルギーヒーリング、解離性同一性障害、構造的解離理論、心理治療過程、自己意識

連絡先：白川 美也子 ころとからだ・光の花クリニック 〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1丁目34-9 サウスコート阿佐谷203-R TEL 03-6454-6525 電子メール：miyakoshirakawa@me.com

注：協働に関するケースシリーズの集積は、ころとからだ・光の花クリニックの倫理委員会（2015年5月）によって承認されている。事例提示は、文書による説明同意を受け、個人情報や排した事例性のある症例提示に同意を得られた人のみを対象としている。

一般発表

アートセラピーで無意識を意識化すると、他者への反応が変わり、 現実をより良い方向へと変化させる

黒須 美枝

アートセラピストアカデミー (有) (日本、埼玉)

要旨：人は他者からの言動に同じ反応を繰り返しがちだが、そのことを自分では気づかないことが多いために、起きた問題に自己責任を感じにくいことがある。アートセラピストが与えた「怒り」のテーマで、体験者が描いた画から、その背景にある「悲しさ、つらさ、コンプレックスなど」に気づき、そこから体験者本人が引き起こした人生の結果に責任を感じ、感情を自己コントロールすることを意識できるようになる。「怒り」はもう自分には無いと思っていた体験者が、自身の描いた画に驚き、理想通りにならない理由に気づき、他者への反応を変えて行こうとする思いが生まれる。今回は、同じテーマで4年後に描き、その違いを比較することで、意識の変化が画の変化をもたらす例を、紹介する。

キーワード：アートセラピー、怒り、繰り返し、他者への反応、自己責任、自己コントロール

連絡先：黒須 美枝 アートセラピストアカデミー

〒330-0855 埼玉県さいたま市大宮区上小町 1204-6 TEL&FAX : 048-647-3080 電子メール : cross@arttherapist-academy.com

一般発表

五感を通じた魂の感動とその関係性を考察する

朝日 舞

一般社団法人健康科学研究所、日本ライブセラピー協会 (日本、千葉)

要旨：日常的に発生するエネルギー現象や奇跡には驚かされるが、よくよく考えてみれば人体の仕組みや、人と人との縁にしても、碁盤の目のように仕組みられた、エネルギーの介在が在るに違いないと考えられる。ご縁の中でイタリアブランドの一人である、三代目 G 氏のセラピーを依頼された。ライブセラピー®には幾つものテクニクがあり、直感的な見極めの中でのセラピーを実施するが、突然 G 氏は枕を叩き、嗚咽を殺して泣き出された。通訳の女性にセラピーを中断するべきかどうかを確認した。すると G 氏は「魂が感動し我慢できなくなったが、セラピーを続けてほしい」との事でそのまま継続する。魂を揺さぶるのが技術なのか、気の力なのか、或いは祈りの力なのかはわからないが、三位一体の日本の技術が、世界に通用したと判断できた瞬間であった。

キーワード：エネルギーの介在、魂の感動、直感的見極め、ライブセラピー®、日本の技術、祈りの力、三位一体

連絡先：朝日 舞 日本ライブセラピー協会

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 5-24-27 TEL 047-427-3381 電子メール : info@live-therapy.com